

siecle 608HP

WINKER POSITION CONTROL&MULT CONTROL

この度は弊社製品<シエクル608HP>をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。本製品はプラスコントロールのハイビームをポジション化することが出来ます。また配線方法によりフォグランプのポジション化、ハイワッテージウインカーポジションとしての制御も可能です。

なを本体ディップスイッチの切り替えにより簡単にノーマル状態に戻すことが可能です。

本製品を安全にご使用して頂く為に、装着ならびご使用の前に必ず本説明書を読んで、内容を十分に理解のうえ取り付け作業をおこなって下さい。

お願い！ 本製品は性能向上などの理由により取り扱い説明書の変更をおこなっております。お手元の取り扱い説明書のVol番号が最新でない場合はお手数ですが当社ホームページを閲覧のうえ、最新版の取り扱い説明書を参考に取付作業、調整をおこなって下さい。

注意！ 車検については【車検について】の項目を参考にして下さい。

使用・調整はお客様の自己判断、責任においておこなって下さい。（* 配線によりノーマル状態にすれば車検は問題ありません）

△ 危険 この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、本人または第三者が死亡または重傷を負う可能性が想定される差し迫った危険な状況を示します

- 本製品は精密部品です。水のかかる場所や水のある場所で作業をしないでください。壊れる原因となります。
- 本製品および付属品は確実に固定し、運転の妨げになる場所・不安定な場所に取り付けしないでください。運転に支障をきたし事故の原因となります。
- 車両・製品より異音、異臭などの異常が発生した場合、ただちに使用を中止し専門業者にて点検、整備を行って下さい。修理等に関してはお客様ご自身で対処すると怪我などの恐れがあり危険です。必ずプロの知識を持った専門業者へ依頼して下さい。
- 本製品の装着により車両に異常が出たままの状態で行くことを、予期せぬトラブルを誘発するばかりでなく、事故を招く可能性があります。性能が損なわれている場合は専門業者にて点検、整備を行ってください。
- 運転中は走行中に本製品の操作を行うと事故の原因となる恐れが大変危険です。
- 本製品の加工・分解・改造などは一切行わないでください。事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。加工・分解・改造等の形跡が見られた場合、クレーム・修理の対象外とさせていただきます。
- エンジン本体、ラジエーター、排気関係の部品は高温になり、火傷の恐れがあります。必ず各部品の温度が下がってから作業 をはじめてください。

△ 警告 この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと本人または第三者が軽傷または中程度の傷害を負う可能性が想定される潜在的に危険な状況を示します

- 本製品は車両電源がDC12V専用です。12V/24V兼用車または、24V車には使用しないで下さい火災の原因となります。
- 本製品の取り付け時はエンジンルーム内の電気配線や配管類を傷つけないように注意してください。ショートなどにより火災、電装品、エンジンの破損の原因となります。使用しない配線などは、絶縁テープを巻くなどして必ず絶縁対策を行って下さい。
- カプラーを外す場合には無理にハーネスは引っ張らず、必ずカプラーを持って取り外してください。ハーネスが破損すると、ショートなどにより火災、電装品の破損、焼損の原因となります。また製品の故障の原因となります。

△ 注意 この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、物質損害を負う可能性が想定される潜在的に危険な状況を示します。

- 本製品の取り付けは専門業者に依頼してください。間違った装着や使用方法により車両装備品およびエンジン破損につながる恐れがあります。
- 本製品は精密部品ですので装着前に落下させたり装着時に無理な力を加えないでください。作動不良を起し、車両を破損させる恐れがあります。
- 取り付け作業のために一時的に取り外す純正部品は、破損、紛失しないように大切に保管してください。弊社では、取り付け作業による物的損害の責任を負うことが出来ませんので慎重に作業を行ってください。
- 本製品は精密部品ですのでハーネスの取り回しで強力な信号、ノイズの発生しやすい箇所は避けてください。誤作動する恐れがあります。
- 本製品に付属するハーネスは耐熱部品ではありませんので高温部を通す場合は必ず熱対策をおこなってください。

【取り付け方法】

■ 工具

- ◎取付作業には配線加工をしますので圧着ペンチ、絶縁テープ、電圧計テスター等が必要です。
 - * 誤配線・接触不良等による本体破損はクレームの対象にはなりませんので慎重に取り付けてください。
- ◎ヘッドライト・バンパー等はずして作業したほうがスムーズに取り付けがおこなえる場合があります。判断してから作業をおこなって下さい。

<配線方法・注意他>

608HPは配線箇所、方法にて下記の制御が可能です。下記のどの制御をおこなうかを決定してから作業をおこなって下さい。

注意！ 制御方法を下記 (A)~(D)の4種類から1つを選択してから作業をおこなって下さい。1つの製品で(A)~(D)の同時制御はできません。

(A) ハイワッテージウインカーポジション (調整可能) 減光比率~約30%

- ウインカーポジションランプのハイワッテージバルブ対応として使用可能です。
- ※最大(~30W×2個)の電球に対応出来ます

(B) ハイビームポジション (減光点灯/調整可能) 減光比率~約30%

プラスコントロール制御に限る。ハイビームがHID車は取り付け不可

◎適合表にてハイビームがプラスコントロールであることを確認してください。適合表に記載の無い車両の場合は下記の<配線方法>→「ハイビームのコントロール方式の確認方法」を参照してください。

* マイナスコントロールの車両に装着しますと本体が破損します。その場合はクレームの対象にはなりません。

◎ハイビームのプラス側、マイナス側を確認してから作業をおこなって下さい

- 4灯式ヘッドライトのハイビームをポジションランプとして使用(ハイビームは通常使用可能)

<参考>

ハイビームコネクタ

電圧計

【ハイビームのコントロール方式の確認方法】

- ハイビームの左右どちらかのコネクタを抜きます。
- ライティングスイッチをロービームにしてコネクタの電圧にて判断して下さい。
 - プラスコントロール車は0v
 - マイナスコントロール車は12vが発生
 プラス側にて判断して下さい。

注意！ 輸入車は上記方法にて判断できない場合があります。

【プラス側、マイナス側の判断方法】

- ハイビームの左右どちらかのコネクタを抜きます。
- 抜いたコネクタにテスターをあてて判断して下さい。
 - ※プラス側→ハイビームにした時に12vが発生
 - ※マイナス側→ボディと導通

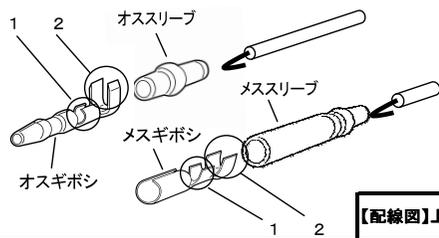
(C) フォグランプポジション (減光点灯/調整可能) LED対応 減光比率~約30%

- フォグランプをポジションランプとして使用(フォグは通常使用可能)

(D) ハイマウントストップランプポジション (減光点灯/調整可能) 減光比率~約30%

- ハイマウントストップランプをポジションランプとして使用します。(ブレーキ時時はハイマウントストップランプの通常動作になります。)※最大(~100W/合計)の電球に対応出来ます。LEDにも対応

<参考> ギボシの使用方法

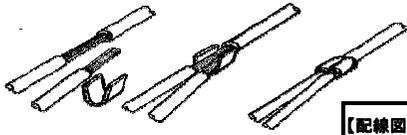


- * 配線の先端を10mm程度の被服をむきます。銅線を半分に折り返してください
- * スリーブを配線に通してからギボシを付けます
- * 圧着ペンチで銅線の部分をギボシの「1」の所で圧着し、被服の部分をギボシの「2」の所で圧着します
必ず「1」の所は銅線の部分を圧着して被服を圧着しないでください。接触不良の原因になります

【配線図】上の記号

◀ →オスギボシ ◻ →メスギボシ

<参考> スプライスの使用方法

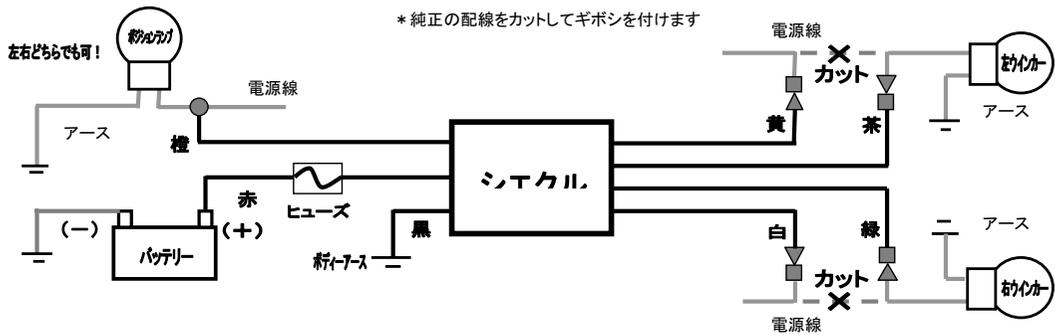


- * 配線の適当な場所の被服を5mm程度むきます。
- * S608HPの配線の先を10mm程度被服をむき、車両配線へ巻きつけます。
- * スプライスを接合部にあて、圧着ペンチでかためます。
- * ビニールテープにて接合部を絶縁します。

【配線図】上の記号

● →スプライス

【配線図】 (A)ハイワッテージウインカーポジション(100W球×2対応/減光比率～約30%)



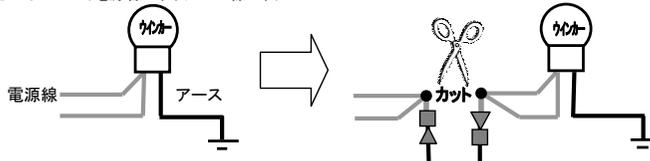
* 純正の配線をカットしてギボシを付けます

- ①右ウインカーの電源側の車両配線をカットして、車両側へメスギボシを付けてS608HPの白線、バルブ側へオスギボシを付けてS608HPの緑線を接続して下さい。
- ②左ウインカーの電源側の車両配線をカットして、車両側へメスギボシを付けてS608HPの黄線、バルブ側へオスギボシを付けてS608HPの茶線を接続して下さい。
★白、緑と黄、茶の接続関係は逆でも可(例、右ウインカーに黄、茶のペア 左ウインカーに白、緑ペア)
- ③S608HPの橙線をポジションランプ(左右どちらでも可)の電源線へスプライス(ハンダ付け推奨)により接続して絶縁テープで保護してください。
- ④S608HPの黒線を車両のバッテリーの(+)に接続してください。
- ⑤S608HPの黒線をボディアースして下さい。塗装部分にアースをする場合は塗装をはがして下地を出してからボディアースしてください
- ⑥配線は電動ファンや駆動部品に触れぬようにまとめて下さい。

<バルブより3本配線が出ている場合の配線方法>

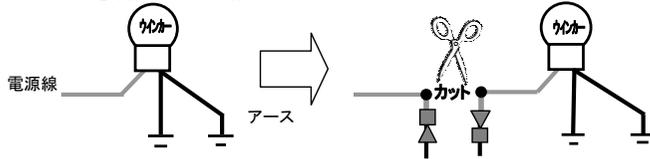
※電源が2本の場合とアースが2本の場合があります。テスターにて確認してから配線をおこなって下さい。

- パターン1(電源線2本、アース線1本)



- ウインカー球より出ているアース線以外の同色の2本の線をカットします。
- カットした線をそれぞれ束ね、ギボシを付けます。
- 608からの配線を接続します。
* 左右の片側が3本線になっている車両もあります。
* 2000年頃生産のホンダ車に多く見られます。(オデッセイRA6他)

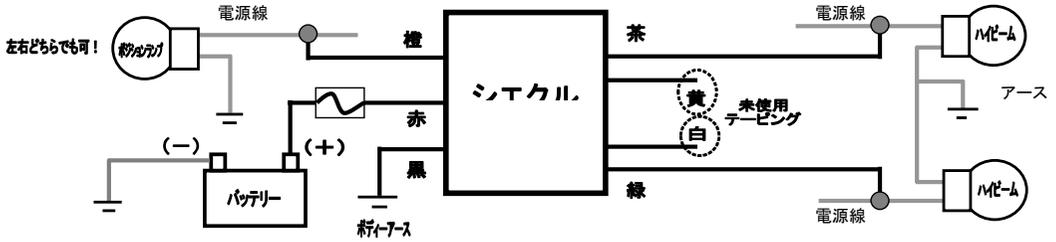
- パターン2(電源線1本、アース線2本)



- ウインカー球より出ているアース線以外の1本の線をカットします。
- カットした線にギボシを付けます。
- 608からの配線を接続します。
* 左右の片側が3本線になっている車両もあります。
* 2000年頃生産のホンダ車に多く見られます。(ステップワゴン他)

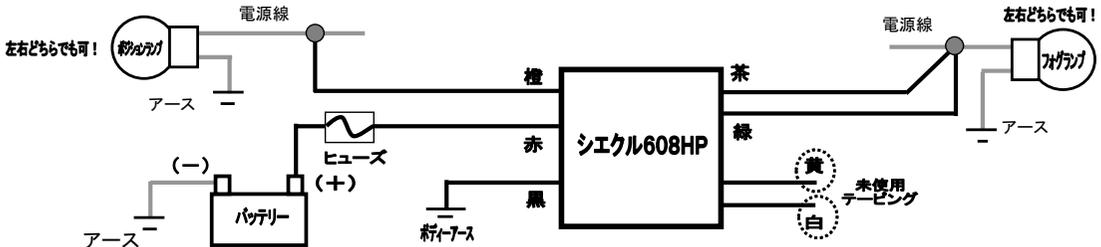
【配線図】(B)ハイビームポジション(減光比率~約30%)

注意！ ●作動中はハイビーム作動灯が薄く点灯してしまふことがありますあらかじめご了承ください。
●ハイビームがプラスコントロールになっている車両専用です。マイナスコントロールの車両には装着出来ません！
適合表に記載のない車両はハイビームのコントロール方式で確認が出来ます。
マイナスコントロール車は608HMの適合になります



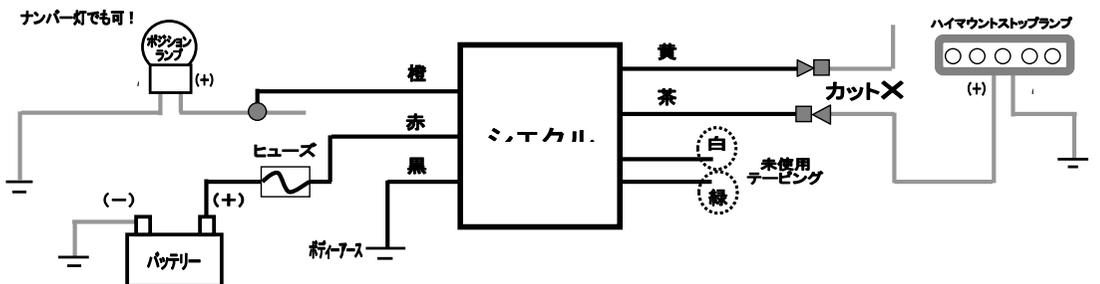
- ①右ハイビームの電源側の配線へS608HPの緑線をスプライスにより接続して下さい。(ハンダ付け推奨)
- ②左ハイビームの電源側の配線へS608HPの茶線をスプライスにより接続して下さい。(ハンダ付け推奨)
注意！*トヨタ車の一部車はカバーの(+)(-)の表字が逆になっていることがあります。必ずテスターにて確認のうえ作業をおこなして下さい。(50エステイマ他...
*トヨタ車は(-)側に白/黒の配線を使用していることが多くあります。絶対に白/黒の配線へは接続しないで下さい。608本体が破損します。
- ③S608HPの白線と黄線は使用しませんのでテーピングして絶縁して下さい。
- ④S608HPの橙線をポジションランプ(左右どちらでも可)の電源線へスプライス(ハンダ付け推奨)により接続して絶縁テープで保護して下さい。
注意！608シリーズを複数個装着する場合は、電源取り出しの位置を左右に分けて下さい。
- ⑤S608HPの赤線を車両のバッテリーの(+に)接続して下さい。
- ⑥S608HPの黒線をボディアースして下さい。塗装部分にアースをする場合は塗装をはがして下地を出してからボディアースして下さい
- ⑦配線は電動ファン、駆動部品に触れぬようにまとめて下さい。

【配線図】(C)フォグランプポジション(減光比率~約30%)



- ①左右フォグのどちらかの電源側の配線へS608HPの緑線と茶線を抱き合わせてスプライスにより接続して下さい。(ハンダ付け推奨)
- ②S608HPの白線と黄線は使用しませんので絶縁テープで保護して下さい。
- ③S608HPの橙線をポジションランプ(左右どちらでも可)の電源線へスプライス(ハンダ付け推奨)により接続して絶縁テープで保護して下さい。
注意！608シリーズを複数個装着する場合は、電源取り出しの位置を左右に分けて下さい。
- ④S608HPの赤線を車両のバッテリーの(+に)接続して下さい。
- ⑤S608HPの黒線をボディアースして下さい。塗装部分にアースをする場合は塗装をはがして下地を出してからボディアースして下さい
- ⑥配線は電動ファン、駆動部品に触れぬようにまとめて下さい。

【配線図】(D)ハイマウントストップランプポジション(合計~100W球対応/減光比率~約30%)



- ①ハイマウントストップランプの(+)(-)を確認して下さい。
→(+は)ストップランプを踏んだ時に12v発生する配線です。
→(-)はボディアースです。
- ②ハイマウントストップランプの(+側)の配線をカットし、カットした配線の車両側へS608HPの黄線、ハイマウント側へS608HPの茶線を接続します。
注意！ハイマウント(+側)のカットする位置は、ハイマウントになるべく近い位置にてカットして下さい。位置を間違えるとリヤストップランプの制御にも悪影響を及ぼす可能性があります。(ハイマウントストップランプ本体より50cm以内推奨)
- ③S608HPの白線と緑線は使用しませんので絶縁テープで保護して下さい。
- ④S608HPの黒線をボディアースして下さい。塗装部分にアースをする場合は塗装をはがして下地を出してからボディアースして下さい
- ⑤S608HPの橙線をポジションランプ(ナンバー灯でも可)の電源線へスプライス(ハンダ付け推奨)により接続して絶縁テープで保護して下さい。
- ⑥S608HPの赤線を常時電源(バッテリーなど)に接続します。
- ⑦配線はボディアース関係にショートしないようにまとめて下さい。

<ヒューズについて>

配線のショートにてヒューズが切れた場合は原因を完全に直してからヒューズ交換をおこなって下さい。(10A/30mm)

<動作確認>

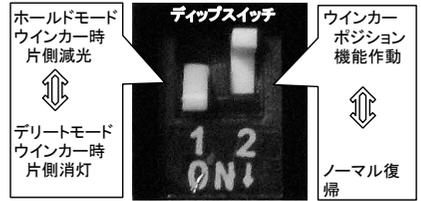
■(A)ハイワッテージウインカーポジション

- ポジションランプONにて動作します。
- ウインカーの動作状態は下表にて確認して下さい。 **注意！(A)ハイワッテージウインカーポジションのみ可能**

【ディップスイッチの機能】

ホールドモード	ウインカーOFF	右ウインカーON	左ウインカーON
右ウインカー	減光(調整可)	ノーマル作動(点滅)	ホールド作動
左ウインカー	減光(調整可)	ホールド作動	ノーマル作動(点滅)

デリートモード	ウインカーOFF	右ウインカーON	左ウインカーON
右ウインカー	減光(調整可)	ノーマル作動(点滅)	デリート作動
左ウインカー	減光(調整可)	デリート作動	ノーマル作動(点滅)

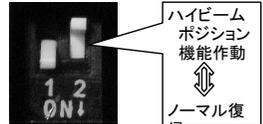


- ウインカー状態からポジション状態に切り替わる時に若干のタイムラグがあります。
- ディップスイッチ2をON↓側にするとノーマル復帰になります。

■(B)ハイビームポジション

ディップスイッチは1をON、2をOFFに設定して下さい。

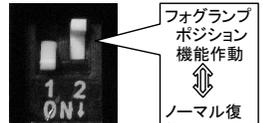
- ポジションスイッチONにて動作します。(減光状態にて点灯)
- 608HPのディップスイッチの「2」をON↓側にしたときに消灯します。(ON↓側の反対側で減光状態にて点灯)
- ハイビームにしたときに通常の点灯動作をします



■(C)フォグランプポジション

ディップスイッチは1をON、2をOFFに設定して下さい。

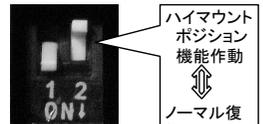
- ポジションスイッチONにて動作します。(減光状態にて点灯)
- 608HPのディップスイッチの「2」をON↓側にしたときに消灯します。(ON↓側の反対側で減光状態にて点灯)
- フォグランプのスイッチを入れたときに通常の点灯動作をします。



■(D)ハイマウントストップランプポジション

ディップスイッチは1をON、2をOFFに設定して下さい。

- ポジションスイッチONにて動作確認をします。(減光状態にて点灯)
- 608HPのディップスイッチの「2」をON↓側にしたときに消灯します。(ON↓側の反対側で減光状態にて点灯)
- ブレーキを踏んだ時に、正常にハイマウントストップランプが点灯するか確認して下さい。



<点灯時ちらつく等の症状が出る場合>

電源供給源の電圧ドロップが原因です。赤線を別の電圧の高い場所より取り直してみてください。

<減光状態の調整方法>

注意！昼間に光度のボリューム調整をすると明るすぎる調整になってしまいます。必ず調整は夜間におこなってください

- 減光状態の光度をボリュームにより調整出来ます。(精密ドライバーにて調整をおこなって下さい。)
- ボリュームを右に回すと明るくなり、左に回すと暗くなります。
- 右図にある光度調整ボリュームの☆印の位置が推奨位置になります。
- ※ ☆印を中心に調整をおこなって下さい。(必ず夜間調整！)
- 調整終了後、付属の防水ゴムカバーをパネル面に被せ、防塵処理をおこなって下さい。

光度調整ボリューム



<本体の固定の仕方>

- エンジンルーム内で熱・水の影響の受けにくい場所へ両面テープにより固定して下さい。設置場所は埃や水分、油分を脱脂してから固定してください
- 必ず調整面を上にして固定して下さい。平面もしくは水平に固定されると水の混入する可能性が高くなり本体破損につながります。

注意！本体を外的高温部分付近に取り付けられますと本体の破損をまねく可能性があります。

又、本体をバンテージやスポンジ等にて巻きつけることは絶対にさけて下さい。なるべく本体が冷えるように考慮した取り付けをおこなって下さい。

<ノーマル復帰>

- ディップスイッチ「2」をON状態にするとノーマル状態になります。
- 注意！ノーマル状態とは608HPを装着しない作動状態です。**

<トラブルシューティング>

全般

●ポジション点灯しない

- 一時的に橙線をバッテリーに接続して作動確認をしてください

点灯した場合

→608HPから出ている橙線とポジションランプ線間の接触不良が考えられますので圧着しなおしてください

点灯しない場合

→608HPから出ている黒線のアースが接触不良をおこしていますので塗装面の固定されている場合は塗装をはがすなどするかアースポイントを変更してください

(A)ハイワッテージウインカーポジションを選択して装着した場合

●ウインカーを出したときにハイフラッシャー(超高速点滅)になる。

- ウインカーの電源線をカットしてギボン(オス・メス共)を接続した部分の接触不良が考えられますので作業をやりなおしてください。
- ウインカーの電源線の入力側と出力(入力側が白線、黄線・出力側が緑線、茶線)が間違えて接続してある事が考えられます。

●前方のウインカー以外も点灯してしまう(サイド・リアがポジションニングする)

- ウインカーのアース線に接続しています。電源線に接続しなおしてください。

●純正パーツが作動すると同調して動作してしまう(例:ウインカーポジションを作動させるとコーナーセンサーが誤作動する)

- ハーネス等からノイズを感知して動作してしまうのでハーネスの這わせ方を工夫するなどして設置してください

